

報告

中部支部集会報告

伊藤信成（三重大学教育学部）

1. はじめに

2009年2月28(土)と3月1日(日)の2日間、岐阜県安八郡安八町にあるハートピア安八天文台および三洋電機太陽電池科学館において中部支部集会が開かれました。どの支部集会でもそうですが、中部支部集会でも今年は世界天文年・日食を意識した内容が盛り込まれました。参加者は2日間を通じて18名(一般14名、学生4名)、発表件数3件のほか、意見交換会等が行われました。以下、概要を紹介します。

2. 1日目の活動

1日目はハートピア安八天文台を会場とし、主として研究報告が行われた。

2.1 世界天文年について(勉強会)

今年度の活動は、どのようなものであれ世界天文年と切り離して考えることは難しいとのことで、集会は天文年についての勉強会から始まった。勉強会はIYA日本委員会と本研究会が企画・作成した「世界天文年 2009 参加・実施マニュアル」を読み進める形で行われ、適宜、質疑応答や意見交換が行われた。

2.2 ハートピア安八天文台での小中学校天文学習対応(ハートピア安八天文台 船越浩海)

ハートピア安八天文台での小中学校天文学習対応について、船越氏から紹介があった。発表について時間的な余裕もあったことから、プラネタリウムでの投影から月の満ち欠けの体験学習まで、参加者が小学生の学習活動を追体験する形で発表が行われた。この発表では、太陽と地球、月の位置関係と満ち欠けの様子を認識させる方法として、地球儀型の帽子や方角がわかりやすく表示された“お面?”

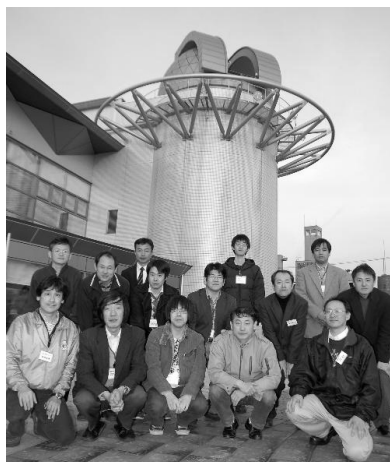


図1 安八天文台前で参加者の方々と

をかぶって回転イスに座するという方法が紹介された。この方法は参加者に大きなインパクトを与えるものであった。実際、教師からの受けも良いとのことであった。会場にはそれ以外にも様々な自作教材が展示され、そのアイデアの豊富さには感服の一言であった。



図2 地球儀型の帽子をかぶり熱演する船越氏

2.3 星景写真スライドショーの上映 (名古屋市科学館 服部完治)

名古屋市科学館の服部氏より、日本星景写真協会と全国巡回写真展の紹介があった。協

会設立の経緯や巡回写真展の日程などをお話しいただいた後、巡回写真展で上映している星景写真のスライドショーをBGM付きで見る機会を得た。

2.4 ハートピア安八高校生観測チームの活動について（一宮高校 高村裕三朗、他3名）

ハートピア安八を拠点とし、近隣にある3つのSSH指定校（一宮高「愛知」、岐山高「岐阜」）及び理数科課題研究校（大垣東高「岐阜」）が連携して行っている天体観測活動が紹介された。昨今、多くの大学で高大連携活動が行われていることと思うが、その多くは大学と高校が1対1で連携する場合が多い。しかしながら、今回紹介された活動においては自治体の枠を超え、異なる県にある高校同士が連携していることに加え、大学（岐阜大）だけでなくハートピア安八という地域の社会施設とも連携して活動を進めていることは素晴らしく、高大地域連携が非常に上手く進められている例として、大いに参考になった。

2.5 施設見学

1日目の活動の最後として、ハートピア安八天文台の70cm望遠鏡の紹介を兼ね、金星の観望会が行われた。

3. 2日目の活動

2日目はハートピア安八天文台直近の三洋電機太陽電池科学館アークホールに会場を移し、日食観測をテーマに議論を行った。

3.1 日食観察等についての自由討論

来る7/22の日食について、自由討論形式で意見交換を行った。科学館等でのイベントの内容を紹介していただいた他、IYA日本委員会公認の日食フィルター以外の観察手法についても意見交換がなされた。また、太陽面の観察以外の物理量（気温、照度等）の測定方

法やイベント周知について意見が出された。

3.2 三洋電機ソーラーアークの見学

ソーラーアークは、前面に太陽電池パネルが貼られ、方舟型をした特徴的な建物であり、下りの新幹線で岐阜羽島を過ぎてすぐ右手側に見える。この建物の一部に太陽電池科学館があり、ソーラーアークの周囲は光をテーマとしたアウトドア科学展示エリアとなっている。今回、太陽電池科学館の館長である坂本氏に案内していただき、見学会を行った。館内には数多くの太陽・光に関する体験型展示があり、予定をかなりオーバーして、じっくりと見学させていただいた。



図3 ソーラーアークを背に

以上、発表数は多くはなかったものの、発表以外の要素も盛り込まれ、内容の濃い2日間となりました。参加者の皆様、会場提供をしていただいたハートピア安八天文台・三洋電機ソーラーアークの皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

伊藤信成